

Nephilim:

やっと、彼に安らぎが訪れたのね。

chaos:

ああ——

Jr.も、シオンも、強くなった。

chaos:

彼らは自分の手を汚すことも
いとわず、大切な人たちに
安らぎを与えたんだ——

Nephilim:

それは——

過去を乗り越えたという

ことなのかしら——

chaos:

わからない。

でも、彼らは歩き始めたんだ。

未来という方角へ向かって——

chaos:

でも——これで終わりじゃない。

Nephilim:

そう、これからが始まり——

Nephilim:

いま、彼女たちを包む世界に
小さな波紋が生まれたわ。

Nephilim:

この波紋がいずれ大きな波になり、
彼女たちをも飲み込んでいく——

chaos:

そうだね——

でも、彼らはその波に流されて
いくような、無力な存在じゃない。

Nephilim:

やっと——わかったのね。

chaos:

僕は——

ずっと迷っていた。

chaos:

シオンたちに、かつての彼らのような
重荷を背負わせてしまってよいのか。

chaos:

でもね、僕が思っていたより、
みんな、ずっと強かったんだ。

chaos:

気づくの——遅かったかな。

Nephilim:

いいえ——

まだ、時は私たちに
味方してくれるはず——

Nephilim:

決して、遅すぎはしない——

chaos:

そうだね、僕もそう思う——

Jr.:

(——メリィ)

Mary:

ん?

Jr.:

(こっちこっち——)

Mary:

ちび様、そない隅っこで
なにしてますのん?

Jr.:

し————っ

Jr.:

大きな声出すなって!

Mary:

ははあん、シェリィやガイナン様に
開かれたくない相談ですのん。
またなにかイタズラでしょう。

Jr.:

そなんじゃねーよ、
あのさあ、ブリッジでさ——
犬、飼ってもいいよな?

Mary:

いぬう!?

Jr.:

おい、こっち来い!

Jr.:

おい、くすぐったいよ、やめろってば!

Jr.:

——こいつ、アビーってんだ。
白色種 [アルビノ] だから、
アビー。

Mary:

ほ～、なーんか
不敵な面構えやな、こいつ。

Jr.:

うん、誰かに似て、
あんまり言うことは
問かねえかな——

Jr.:

おい、そんなに
吠えるなって!

Shelley:

あら、元気な子犬ですわね。

Gaignun:

なんだ、Jr.が連れ込んだのか?

Mary:

あちゃ~、見つかってもた。

Shelley:

いかがなさいます、ガイナン様?

Gaignun:

ふむ——
餌代その他もろもろ、

Gaignun:

Jr.のコレクションを処分して
捻出するというなら、
考えてもかまわないぞ。

Mary:

あ、そりゃ名案や!

Jr.:

なんだよ、そりゃあ~~。

Albedo:

(ルベド——
ニグレドの影に気をつけろ)

Albedo:

(あいつがウ・ドウに
反応しない理由を
——考えるんだな)

Jr.:

(——)

Jr.:

(あの時、アルベドは
言っていた——)

Jr.:

(まさか——
ハマーが言ってた、親父からの
通信の発信元——)

Jr.:

(そいつがこのデュランダル内に
偽装されてたことと、

なにか関係があるのか?)

Gaignun:

———どうした、Jr. ?

Jr.:

あ、いや———

Gaignun:

なんだ、そんなにショック

だったのか。

ただの冗談だぞ。

Gaignun:

うちも子犬一匹と悪ガキ一人の趣味を

まかなうくらいの収益は

あげてるんだ、気にするな。

Jr.:

誰が悪ガキだ!

Shelley:

ちび様、子犬をブリッジに

連れ込んだりしているうちは

反論にも説得力がございませんよ。

Jr.:

う———

Gaignun:

まあ、そういうことだ。

Jr.:

———

Jr.:

(ガイナン、いつも通りだよな。

あいつ、なにが

言いたかったんだろう——)

Juli Mizrahi:

おかえりなさい、モモ!

MOMO:

ただいまです!

あの———

MOMO:

先日のお話ですけど——

Juli Mizrahi:

それについては、私から

お話するわ。

Ziggy:

なにかご用件が?

Juli Mizrahi:

しばらく、モモと暮らしてみようと

思います。

Juli Mizrahi:

有事にはふたたび、この子の
護衛をお願いしたいのですが——
以後の御予定は？

Ziggy:

代表理事の厚意で、身柄は
クーカイ・ファウンデーション付と
なっています。

Ziggy:

デュランダルに駐留し、
モモの要請があれば、
最優先で出向するようにと——

Ziggy:

そのための延命処理も
施されることになりました。

Juli Mizrahi:

そうですか、それは嬉しいわ。
公人としても、私人としても——

MOMO:

どちらの代表理事の手配ですか？

Ziggy:

無論——

Ziggy:

小さい方だ。

Shion:

KOS-MOS、調整完了よ。
頑張ってくれたね——

KOS-MOS:

——

Shion:

(——私にはあなたに迫る危機を
排除する義務が課せられています——
——か)

Shion:

いったい、その義務をあなたに
与えたのは誰なの——？

Shion:

——

Shion:

——やっぱり、あなたなんですか？
だとしたら、その目的は？

Shion:

教えてください——

Shion:

ケビン先輩——

???:

教皇の逝去にともなう混乱は、
終息しつつあるようだな。

Margulis:

総帥のご指示の通り、
事態の収拾に際して、
武力の濫用は控えました。

Margulis:

恒星がひとつと、惑星がふたつ、
吹き飛んだ程度です。

Margulis:

いずれも、新教皇の選出を待つ
という名分で、去就を明らかに
しなかった者どもです。

???:

いまはまだ、教皇の権威に
頼る必要はない。
選出には時間をかけてもらおう。

Margulis:

——我ら異端審問官は、総帥をこそ
載くことになるかと
熱望しておりましたが。

???:

傀儡師に傀儡になれというのかね？
なるほど、お前たちには
その方が都合がよいか。

Margulis:

いえ、決してそのような——

???:

戯言はさておき、
まずは地歩を固めねばならん。

???:

そう長くはないであろう。
一年の後には、世界はお前の
望んだものとなる。

Margulis:

は、その日まで総帥の御為に
この身、捧げます。

???:

間もなく、あれが出現する。

いよいよだ——

100-Series:

メリィさま、ポイント3-Eに
ゾハルを確認!

100-Series:

シミュレーターとの座標を照合、
93%の確率で、ミルチアにあった
オリジナルと思われます。

Mary:

でかしたで!
ワイヤーポッド射出用意!

Mary:

ほな、最後の一働きや!
みんな気張りや!

100-Series:

警戒信号!
宙域周辺に異常を確認——

Mary:

なんや、しっかり報告しい。

100-Series:

ゾハル周辺宙域に
大規模な空間歪曲を探知——

100-Series:

大質量体がゲートアウトします!
質量予測値増大、測定不能——
通常空間に実数化します!!

Mary:

グノーシス!?
そんなばかな——こんな巨大な
グノーシスがおるんかいな!

100-Series:

衝撃波、来ます!

Wilhelm:

———
アベルの方舟だ。
???:

Wilhelm:

君にも見えるだろう、
イエオーシュア。

chaos:

まだ、その名前と呼ぶのかい?

Wilhelm:

——君と話せる機会が増えて、
嬉しいよ。それともちょっと、
干渉の度が過ぎたと言いたいのかな。

chaos:

———決めたよ。僕はもう、迷わない。

Wilhelm:

嬉しいよ、君が——
やっと舞台に上がってくれて——

Shion:

そう、やっぱり行くんだ——

Jin:

今回の一連の事件
これで終わりとは思えなくてね。

Jin:

教皇の言い残したオルムスという
組織の事も気になりますし——
ミズラヒ博士からの依頼もあります。

Shion:

やっぱり——
ユリさんとなにか話し込んでる
と思ったら———

Jin:

すみませんね、いずれ
詳しく話せる日もくるでしょう。

Shion:

古本屋——
やっぱり半年持たなかったね。

Shion:

今度もまた、
半年で商売替えなんて
ことはない？

Jin:

努力はしてみますよ。
ただ——

Jin:

果たして時が
半年も待ってくれるかどうか——

Jin:

——なんてね。

Matthews:

旦那、そろそろ出航だ。
デッキに上がってくれ！

Jin:

では、シオン——
達者で。

Jin:

アレンさんも、
シオンをお願いします。

Allen:

は、はい!
全力をもちまして!

Shion:

兄さん
気を——つけてね——

Jin:

ありがとう。

Shion:

(兄さん——私も——
ありがとう——)

???:

せんばーい!

Shion:

え?

Allen:

ミュキちゃ——うわあっ!

Miyuki:

お帰りなさい、先輩!
なんかも一大変でしたねー。

Shion:

あなた、なんでファウンダーションに
いるの?

Miyuki:

えへへー、
あの巨大グノーシスの出現に、

Miyuki:

クーカイ・ファウンダーションと
我が社で、合同調査班が
作られたんです。

Miyuki:

そこに加われば、先輩に
会えるんじゃないかと
思ったんです~大・正・解!

Allen:

あいたたた——
あんな波瀾万丈を乗り越えたと
思ったら、今度はこの仕打ち——

Allen:

もう体がもたないよ、
一介の研究者には酷すぎる。
ああ、たつぷりと休暇を取りたい——

Miyuki:

あ、アレンさんの休暇は当分先です。
報告書、山ほど溜まってますから。

Allen:

うえー、マジですかぁ!?

Shion:

ふふつ、
さ、KOS-MOS
私たちも行こうか。

Shion:

やらなきゃならないことは
たくさんあるもんね——

KOS-MOS:

了解です、シオン。

Wilhelm:

なるほど、これが件のY資料——
よく手に入れてくれた。
しかし——欠損が多いね

Blue Hooded Man:

百式プロトタイプの主データベースは
あいつやU-TIC機関が、
洗いざらい探した筈だぜ。

Blue Hooded Man:

それで欠損って言われてもなあ。

Red Hooded Man:

彼が触れたのは深層意識までだ。

Wilhelm:

深層意識の更に下——
無意識領域の最下層——

Wilhelm:

ウーヌス・ムンドウスに、
その答えがあるというのかい?

Red Hooded Man:

——おそらく。

Wilhelm:

ふうん——
まあ、そういうことにしておこうか。

Wilhelm:

ロスト・エルサレムへの道が
開かれたとき、
KOS-MOSは——目醒める。

Blue Hooded Man:
で、あいつはどうする？
???:

—————
Wilhelm:
惜しいと言っただろう？

Blue Hooded Man:
——だとさ。
良かったな、相棒。

White Hooded Man:

—————
Wilhelm:
ようこそ——
永遠の連環[ツアラトウストラ]を
紡ぐ者よ———